

ファッション
One Point
アドバイス

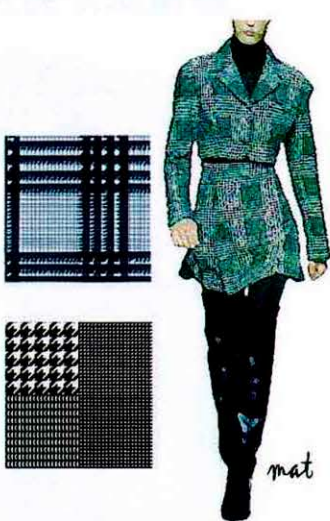
ブリティッシュスタイルで テーラード

フォーマルなジャケットは、何といてもブリティッシュスタイル。グレンチェック (glen check) やヘリンボーン (herringbone) といったイギリスの伝統的な織柄を用いたテイラードカラーのジャケットが主役です。

「グレンチェック」とは、「グレンカートチェック (glenurquhart check)」とか「グレンカートブラッド」とも呼ばれているチェック柄です。

経(たて)糸・緯(よこ)糸ともに濃色2本、明色2本、濃色4本、明色4本を繰り返して綾織りにした織物で、千鳥格子やヘアライン格子など細かい格子を組み合わせた格子柄。イギリスの伝統的な柄として、トラディショナルなスーツやジャケットに用いられ、落ち着いた雰囲気醸し出してくれます。

また、グレンチェックは「プリンス・オブ・ウェールズ」とも呼ばれます。“Prince of Wales”は王位継承権を持つ英国の王子の呼称ですが、英国王エドワード7世がグレンチェックを好んで愛用したことから、この名で呼ばれるようになりました。また、ヘリンボーンは、日本でいう杉綾のことで、“ニシンの骨”のような柄に見えることから、この名がつけました。また、当然のことながら、ジャケットのカラー(衿)は、英国トラディショナルなテイラードカラー (tailor collar) で、特に、ダブルブレストカラーがお勧めです。



絵画の中の洗濯風景

初期の洗濯機のカタログ



シアーズカタログ (1906年)

アメリカのハミルトン・スミス氏が1858年に木製の樽で衣服をかき混ぜる構造の回転式家庭用洗濯機械の特許を取得しました。開発に6年を要し、マシンはクラックで動作し、下部にある大きなパドルを回転させて、泡立つ水の中で衣服を回転させるものでした。手を濡らさずにすばやく洗濯することができるという当時としては画期的なものでした。

それまで、重労働であった家庭での洗濯が子供でもマシンを操作できることを誇らしげに自慢した1906年のシアーズカタログの広告です。

1908年、電気がアメリカの一般家庭に普及すると、最初の電気洗濯機がイリノイ州シカゴのハーレーマシンカンパニーによって開発されました。「トール」と呼ばれるこの洗濯機は、スミス氏の原理と同じドラム式のものでした。(参考資料: Professor Hanington's Speaking of Science)。



くらし応援ニューズレター

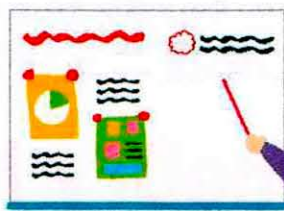
HomeDry News

ホームドライニュース No.95



ファッション・ワンポイント:ブリティッシュスタイルでテーラード
絵画の中の洗濯風景:初期の洗濯機カタログ
衣類のケア講座:虫害はタンパク質繊維に発生します
衣生活の知恵:フリースは静電気が発生しやすい

まごころクリーニング
ホームドライ
<http://homedry.or.tv/>



衣類のケア講座

虫害は毛や絹などの タンパク質繊維に発生します

大切な衣類を取り出してみたら、生地に穴が開いてしまっているという虫害。また、害虫が噛み荒らした繊維屑を洗い落とすことで、損傷が目立ちやすくなってしまいます。編み物の場合1本の糸が噛み切られていれば、編み糸がほつれて、穴が拡大するということがあります。

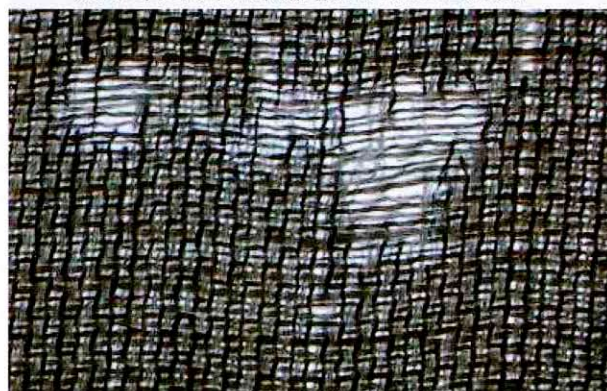
一般的には、素材がウールや絹などの蛋白質繊維に発生します。

ポリエステルなどの合成繊維では、原則的に虫害は発生しません。一部の研究者の報告に、ポリエステルなどの合成繊維でも虫害にあうとしていますが、その試験方法は、バターなどを付着させた合成繊維だけを入れた容器に、害虫を閉じ込めた状態で行われており、飢えた害虫が油脂成分を食しようとして、合成繊維まで噛み切ってしまうというものです。しかし、実際のクローゼット内の保管状況では、毛繊維製品も混在しているのが普通であり、合成繊維よりもウール繊維に向かいがちだといえます。ま

れに、ウール繊維と混用されていて、害虫の好む汚れが付着している場合に合成繊維でも損傷することがあります。



まれに害虫が合成繊維をかみ切ることがある



ポリエステルとウールの混用品ではウールだけ損傷する虫害の外観からの特徴は、繊維が食べられてしまっているので消失していることです。かぎ裂きや引っ掛け傷であれば、繊維は切れても消失してしまふことはありません。また、繊維が消失していても、芯地が毛繊維でない場合は、被害が芯地にまで及んでいないことです。薬品による損傷の場合は、芯地まで浸透して変色等の影響を与えます。



フリースは 静電気が発生しやすい



乾燥した季節には、静電気が体に蓄積されて、スカートがまとわりついたり、ドアノブを触るとパチッといやな放電が起きたりします。

フリースの素材は、湿気をほとんど吸収しないポリエステルですから、乾燥した季節になると、着用時の摩擦によって発生する静電気が逃げるのができず、体に蓄積されるようになります。

マイナス静電気の発生しやすい合成繊維とプラス静電気を発生する獣毛の組み合わせは禁物です。綿の下着と綿のジャケットの組み合わせがおすすめです。また、静電気は空気中のホコリを吸い寄せるので汚れやすくなります。